



2006年3月1日

通巻1035号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL076-262-6009 角間内線2105
E-MAL kanazawa@ku-union.org



**金沢大学版
地球の歩き方**

《ウルビーノ紀行》

石黒 盛久 (教育学部)

ITALY ルネサンスの理想都市ウルビーノを訪ねて

筆者は昨年末、かつて留学していたイタリアの地を再訪する機会に恵まれた。今回の旅の一つよろこびは、長らく果たせぬままにいた、ルネサンスの理想都市ウルビーノの探訪が、実現したことだった。ルネサンス都市といえばまず、フィレンツェが思い起こされる。しかしフィレンツエの最盛期は14世紀であって、ルネサンス文化は中世末、既に出来上がったこの街の文化の骨格に、表皮をかけたに過ぎない。色彩的調和や幾何学的均衡、徹底した合理性の追求、強烈な個性といったルネサンス文化の特色を、純粹に実現した都市となると、むしろ限られたものとなってくる。



ウルビーノの宮殿

そうした純粋なルネサンス都市の一つが、今回紹介するウルビーノの街だ。今日のイタリアの表街道、(ミラノーフィレンツエーローマ)線から見た場合、ウルビーノは余りに遠い。イタリアの背骨をなすアペニン山脈が、直線にして100キロのフィレンツエ/ウルビーノ間を、鉄道で一日がかりの地に引き離すのだ。フィレンツエから西部線を特急でローマまで、2時間かけて南下し、更にローマから乗り換え、東部海岸線を4時間近くかけベーザロまで北上する。ベーザロで長距離バスに乗り換え1時間ほど、アペニンの山懐に入り込むところにウルビーノはある。途中、海岸沿いに山脈がせり出し、海と山の間の細い帯のような土地に、人家がぼつぼつ建っている様は、「ほくほく線」を思い起こさせた。だが中世の人々にとって、対岸にギリシアを望むこの地域は、決して「裏イタリア」ではなかった。日本語でウルビーノにつき論じた書物としては、下村寅太郎氏の『ルネサンス的人間像—ウルビーノの宮廷をめぐって』があるに過ぎない。だが、この



美しい宮殿の中庭



街の正門



街路の急斜面に注目

都の文化水準の高さは、ラファエロがこの宮廷で英才教育を施され、その画才を開花させたことや、西洋式マナーの源流として高く評価される、カスティリオーネの『廷臣論』が、この宮廷における体験をもとに編まれたことからもうかがえる。

ウルビーノはアペニン山岳地帯の断崖の上に、まるで蜃気楼のように姿を現す。中世都市の多くが険しい丘陵上に築かれたが、ウルビーノほど峻険な断崖に営まれた都を筆者は知らない。バスは、古代の凱旋門を模した街の正門前に着く。この古代式の門からして既に、他の中世都市とは異なる、純粹ルネサンス都市としての、ウルビーノの面目を示している。門から直線に伸びる街路が延びている。その傾斜角は30度近くあり、早足で歩けばたちまち息切れを引き起こす。防御上、街路の蛇行が多かった中世都市と対照的に、この主街路が幾何学的直線を描く一方で、激しい傾斜が外敵の侵入を阻んでいる点にも、建設主のルネサンス的合理性がうかがえるようだ。これらの門や道だけではない。都を中心をなすものこそ、「世界における最も美しい建築」と美術史家クラークに賛美された、ウルビーノ公フェデリコ・ダ・モンテフェルトロの「公爵宮殿」であることは言うまでもないが(国立マルケ絵画美術館が内部に併設されている)、都市内に宮殿があるのでなく、「宮殿の中に都市がある」と称されるほど、この潇洒な都全体が宮殿と有機的に絡み合っている。宮殿第一の壮観とされる中庭、1年365日に照応し365室あるとも言われるそれぞれ趣向を凝らした部屋部屋、公の自意識の結晶としての西洋最初の〈書斎〉など見るべきものは多い。しかし何より私に感銘を与えたのは、この都市の有機性・合理性を貫くものがひとえに、そこに刻み込まれたフェデリコ公という一人の人間の、個性に他ならないという事実であった。元来モンテフェルトロ伯家として出発したこの家系が、彼の時代、その傭兵將軍としての卓越した能力により、ウルビーノ公国へと発展したことからわかるように、この街そのものが彼一人により構想され、設計され、建設されたところに、冒頭述べたこの街の、ルネサンス都市としての純粹性がある。



市場には新鮮なくだものが…



山国なので肉製品が豊富



古くから陶器の街としても知られている

『廷臣論』によればこの都=宮廷においては、公を中心に廷臣達、女官達、各国の使臣や学者、芸術家から庶民の端に至るまで、一つの家族として相和合しつつ暮らしていたと言うが、プラトンの理想国家の現世における成就を思わせるこの和合の、今に残る抜け殻こそ、都市ウルビーノの有機性なのだと思ったりした。長年の憧れの地を訪れ改めて、この小さくとも端正で豊穣な都市世界の、誕生-成長-開花-衰退-滅亡の物語(story)を、歴史(history)を学ぶ者として追体験したいという、新たな情熱にとらえられた。

音楽の小窓

クリスチャン・ツィメルマン

小野 隆太 (教育学部)

本年6月に世界的ピアニストクリスチャン・ツィメルマンが富山のオーバード・ホールでリサイタルを行う。1975年、史上最年少の18歳でワルシャワで開催されたショパン国際コンクールに優勝し、その後巨



匠への道を着実に歩んでいる、実力と世界的人気を誇る正統派ピアニストであり、私の最も尊敬するピアニストである。世界各地でリサイタルを行う際、自分のピアノを持ち込んで納得のいく演奏を目指すと言うこだわりようだ。かつてウラジミール・ホロヴィッツがリサイタルの度に自前のピアノを持ち込んでいたが、それ以来ではないかと思う。ツィメルマンがまさか北陸に来てくれるとは…！私は興奮した。ベルリン芸術大学留学中も、ベルリンで行なわれたリサイタルは全て聴いたし、東京で行なわれたリサイタルは全て聴きに行った。そのチケットは高ければ一万円を超えるものであるにもかかわらず、発売直後に完売するくらい現在のピアノ界では入手困難なチケットなのである。今回も来日が決まって、必ず東京に聴きに行くぞ！と思ったものの、あえなく発売直後に完売で、遂に今回は聴けないかと落胆した。

しかしそんな矢先、なんと富山にも来てくれるという！これだけはなんとしても入手しようと思い、発売の1時間前から売り場で待った。やった一番乗りだ！と思ったものの、一向に後から並ぶ気配がない。結局だれも後ろに並ぶことなく、簡単に入手できたため、ある種むなしさにも襲われた。あとから知ったことだが、発売開始一週間経ってもまだ完売していないらしい。私は自分がいとも簡単にツィメルマンのチケット入手できたことを喜んではいない。北陸のピアノ人口は決して少なくない。むしろ割合から言えば、非常に多いのではないかと感じている。にもかかわらず、まだチケットが売れ残っている現状を見て、北陸のピアノ界の将来を案じてしまう。ピアノに関心のない方にわかりやすく例えて言うのなら、北島三郎を聴いたこともないのに演歌を勉強しているようなものだ。結果的にはこのリサイタルは満席になる。ならなければおかしいのである！もし空席ができるようなら、もうツィメルマンは二度と北陸に来ることはないと想う。このチャンスに是非一度足を運んでもらいたいものである。



「クリスチャン・ツィメルマン」 ピアノ・リサイタル 2006

- 日 時 2006年6月6日(火) 19:00~
- 会 場 富山県オーバード・ホール
- 料 金 前売り S指定 10,000円、A指定 7,500円、B指定 5,000円
(アスネットカウンター、チケット取扱い)
- お問い合わせは (財)富山県市民文化事業団 企画制作課 076-445-5610
北日本放送販促事業部 076-432-5555



♪プロフィール

1975年に史上最年少の18歳でショパンコンクールに優勝して以来、あのカラヤンやバーンスタインがその才能を絶賛。いま世界で最も人気と実力を誇るピアニストの富山公演です。

「ゆにゆに」を読んでのご意見をお寄せください！
今後の紙面の充実がはかれますよう、みなさんのご協力をよろしくお願いします。
「ゆにゆに」は毎号組合ホームページ <http://www.ku-union.org/> に掲載しています。

あすきの♪

ちょっといいはな店

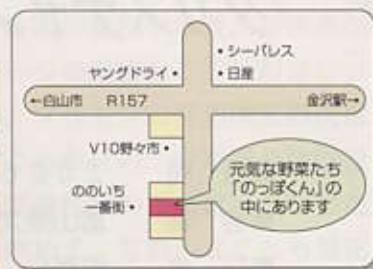
コミュニティ・トレード al(アル)
電話 076-246-0617

菊本 舞 (経済学部)

階段を昇ってゆくと、色とりどりの世界からの贈り物が目に飛び込んでき、そしてなんだかとってもいい匂い…。「コミュニティ・トレード al(アル)」は、野々市にある自然食品のお店「のっぽくん」の2階にあります。もともと「フェアトレードくらぶ」という市民グループの活動から生まれたお店で、生産者の自立を応援するフェアトレード商品や、環境・平和・人権のためのNGOグッズやエコグッズを扱っていましたが、昨年の改装を期にデリカフェもオープン。「のっぽくん」で扱われている地物野菜を中心に、地球も農家さんも食べる人もシアワセになれるようなメニューをそろえ、訪れる人を優しく迎えてくれます。alでは顔がわかる範囲の生産者さんとのお付き合いを大切にされています。それが「コミュニティ・トレード」の所以のひとつ。

カウンターに並んだ5~6種類のお惣菜、ごはん、そして汁物(1品120~150円くらい)の中から、好きなものを選んで自分だけのお献立の完成。ある日、私が選んだのは、純ちゃんの人参の甘酒ドレッシング(タルタルソースをさっぱりさせた感じでとっても美味しい)、玉葱みそベンネ(椎茸と胡麻の風味がきいています)、炒り豆腐、玄米焼きおにぎりとスープで620円なり。どれも優しいお味で心がゆったりほっこりします。一見少なそうに思われるかもしれません、おなかいっぱいになるんですよ。

そうそう。スイーツも見逃せません。日替わりで並ぶのは、バナナ春巻き、リンゴのケーキ、お豆腐クリームを使ったケーキなど、精製された砂糖を使わない身体に優しいメニュー。デリも美味しいけれど欲張りすぎず抑え目にして、デザートもぜひどうぞ♪



野々市町本町2-1-24(R 157号線横宮交差点南方向) TEL: 076-246-0617
SHOP・CAFÉ 営業時間: 10:00~19:00 DELI 11:30~14:30(L.O)
定休日: 毎週月曜日 WEBサイト www.h4.dion.ne.jp/~ftc

○○○編集後記○○○

遅くなりましたが、「ゆにゆに」1035号をようやくお手元にお届けすることができました。今回も編集にご協力くださった皆様、どうもありがとうございました。ツイメールマンのコンサート、私もぜひ聞きに行きたいと思います。執筆者の小野先生のおっしゃるとおり、音楽爱好者にとって、これほどの機会を逃す手はありません。野々市のデリ・カフェ、ヘルシーなメニューは私のような単身赴任者にとっては、とっても魅力的です。今後とも皆様より、有益な情報を寄せ頂けますよう、お願ひいたします。

(編集者/M・I)